

近 況 報 告

作永 しげみ

平成 29 年3月に長崎医療センターを定年退職いたしました。

在職中は、諸先輩方、同僚、家族に支えられ、職責を果たすことができたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

現在は、ご縁があり、向陽高等学校看護専攻科で実習教員として、働かせていただいています。これまでの学生指導を振り返り、忙しい業務に追われ、十分指導に関わることができていなかったことを反省し、これまでの看護師経験で学んだことや、看護の喜び、尊さ、看護の奥深さを語り伝えていくことができればと思い決心しました。

はじめはとても不安でしたが、向陽高校の先生方、実習病院である愛野記念病院の指導者の方々にご指導いただきながら、何とか5か月が経過しました。実習引率教員の1日のスタートは、朝7時前、スクールバスでの実習病院への移動から始まります。実習中の学生は、睡眠時間を削り、毎日レポート整理、国試対策の学習に頑張っており、その姿にとっても感動し、若いパワーに元気をもらっています。実習病院では、指導者の方より、疾患、病態のとらえ方、観察点やアセスメントの視点など一つ一つ丁寧にご説明いただき、また、お忙しい中、吸引や包帯法についてのデモンストレーションを行っていただき、恵まれた学習環境での学びに大変感謝しております。

学生は患者と関わる中で気づき、たくさんの学びを得ています。足浴のケアを通して、「前向きになることができた。もう一度してほしい」と緩和ケア病棟の患者さんからの言葉や、反応が乏しい高齢者に笑顔が戻り会話ができるようになったり、困難だったリハビリができるようになったりとたくさんの事例が、自信や達成感につながっていると実感しています。またその時間を一緒に共有できることにやりがいと喜びを感じています。

これから同じ仲間となる看護師のたまごの指導に責任の重さを感じるとともに、人を育てることの難しさを感じつつ、さらに自分自身スキルを磨き成長していきたいと思う今日この頃です。